

## 獣 医 麻 酔 外 科 学 会

### 1 学会名：獣医麻酔外科学会

(Japanese Society of Veterinary Anesthesia and Surgery)

### 2 ホームページ並びに連絡先：

URL <http://jsvas.info>

E-mail [jsvas5473@yahoo.co.jp](mailto:jsvas5473@yahoo.co.jp)

### 3 組 織：

会 長：廉澤 剛 (酪農学園大学)

副 会 長：原 康 (日本獣医生命科学大学)

入江充洋 (四国動物医療センター)

理 事： 8名

評 議 員： 88名

事 務 局：梶田恵美子 (東京大学)

名誉会員： 18名

会 員：1,394名

### 4 沿革と目的：

本学会の前身である獣医麻酔研究会は、1970年に設立された。その後1989年に学会組織へと改組し、学会名称も獣医麻酔外科学会と改称し、本年6代目会長に継承した。獣医外科並びに麻酔鎮痛領域の専門家集団として知識と技術を社会に正しく伝えることを責務とし、質の高い獣医外科医・獣医麻酔科医の育成、先端医療研究の推進と医療技術の創成、外科手術の基本手技等の正しい知識と技術の普及並びに啓蒙、他の医療領域との連帯を実施することを目的とした学会である。

### 5 活動内容と特色：

学術集会を春季と秋季の年2回開催している。春季学術集会はここ数年、日本獣医循環器学会と日本獣医画像診断学会との合同学会として埼玉県大宮で開催しており、本年6月の合同学会には約1,000名の獣医師が参加した。秋季は札幌、仙台、名古屋、大阪、福岡会場を輪番で開催しており、今回は来年1月11～12日に循環器学会と合同で仙台において開催予定である。

学術集会のプログラムは、次の三つの専門部会によってシンポジウム (各専門部会1テーマ)、パネルディスカッション (同3)、教育講演 (同6) 及びリフレッシャーコース (同6) の内容が計画的に決定され、その他に合同プログラム、若手のBasicセミナー、分野別の一般講演 (50演題以上) があり、外科と麻酔の基本から応用まで学ぶことができるのが大きな特徴である。

また、本学会はWCVA (世界獣医麻酔会議) を日本に招致し2015年9月に京都にて開催予定である。

#### ①麻酔・疼痛管理専門部会

より安全な麻酔管理や疼痛管理のための教育と普及啓蒙を担う。犬及び猫の臨床例に安全な全身麻酔を行うためのモニタリング指針や周術期における疼痛管理指針を作製した。また、麻酔ブートキャンプ・公開講座を年1回開催している。

#### ②整形外科専門部会

整形外科領域における診断と治療法の教育と普及啓蒙を担う。東日本大震災復興祈念整形外科シンポジウムとして、昨年3月は仙台にて、本年3月は八



第86回獣医麻酔外科学会での講演風景  
講師は山口伸也大会長 (YPC 東京動物整形外科病院)

戸と盛岡にて開催した。また、本年3月に地区講習会を大分県にて開催した。

### ③軟部組織外科専門部会

軟部組織外科領域の診断治療法について正しい知識と技術の教育、そして外科医の育成を担う。手術手技の標準化を目指してテキストブックの作成を進めている。

上記3専門部会以外に日本小動物外科専門医協会を組織し、小動物外科専門医制度を設立した。レジデントプログラムを修了し学術筆記試験に合格した者を日本小動物外科専門医と認定し、専門医による外科領域並びに本学会の善導を担う。2013年6月現在、コーネル大学の林 慶、相川動物医療センターの相川 武、日本大学の枝村一弥の3名が日本小動物外科専門医として活躍している。春季学術集会の前日には、専門医を目指すレジデントの発表会としてレジデントフォーラムが開催されている。

### 6 獣医麻酔外科学会誌：

本学会では年に4回、学会機関紙を発刊し会員に郵送している。内容は、獣医麻酔学並びに外科学の臨床と研究の発展に寄与するためのものとし、本会会員から投稿を受け付けている。総説、特別寄稿、原著及び短報、レター、技術講座、資料・文献紹介などを掲載している。年に1回、掲載された原著並びに短報に対し、先見性、独創性、的確性、論文の完成度、臨床への貢献度の5項目について編集員会による審査を行い、論文賞を選定している。本誌は、J-STAGEで閲覧も可能である。

### 7 文責者：入江充洋

〒761-0701 香川県木田郡三木町池戸  
3308-5  
四国動物医療センター